

「公共建築の日」2016 フォトコンテスト審査結果

「公共建築の日」フォトコンテストは、平成15年に第1回が開催されて以来、毎年「公共建築」をテーマに作品をご応募いただいております。今年度から「携帯・スマホ部門」を新設し、写真初心者の方やフォトコンテスト未体験の方など、より多くの方にも「公共建築」を身近に感じていただける機会としました。

この「携帯・スマホ部門」と従来からの「デジタルカメラ部門」の両部門ともに、「ひとつがどうたてももの」をテーマとして、四季を通して公共建築を舞台に人々が集う写真を募集し、道内外各地から両部門合わせて115作品の応募がありました。多数のご応募ありがとうございました。

公正な審査の結果、入賞作品を決定いたしましたので、お知らせします。

デジタルカメラ部門

★★★グランプリ

木下 裕貴

『近未来へGO』

施設名:モエレ沼公園 ガラスのピラミッド



■審査委員講評

ガラスのピラミッドに当たる太陽を逆光線に未来に向かって走る子供をシルエットにコンクリートにのびる影をシンプルに力強い作品です。構図とシャッターチャンスも素晴らしい作品となりました。

★★準グランプリ

佐々木 直子

『晴れ晴れ気分』

施設名:滝野すずらん丘陵公園



■審査委員講評

見る人の気持ちが優しくなるような作品です。柔らかい新緑の光の中、チューリップの色彩と2人のウエディングの白が印象的である。

★★準グランプリ

山内 佳子

『時代を越えて』

施設名:豊平館

■審査委員講評

新しくリニューアルされた豊平館と幼稚園児と保母さんのなんとも微笑ましい作品となった。画面全体のバランス、トリミングがとても良い。



★佳作

佐竹 輝昭

『夏の日に』

施設名:モエレ沼公園ガラスピラミッド

■審査委員講評

空を濃いブルーにした技術とガラスのピラミッド、傘を持った2人の人物の配置や遊ぶ子供たち夏の暑い日差しがとても良く表現されている。



★佳作

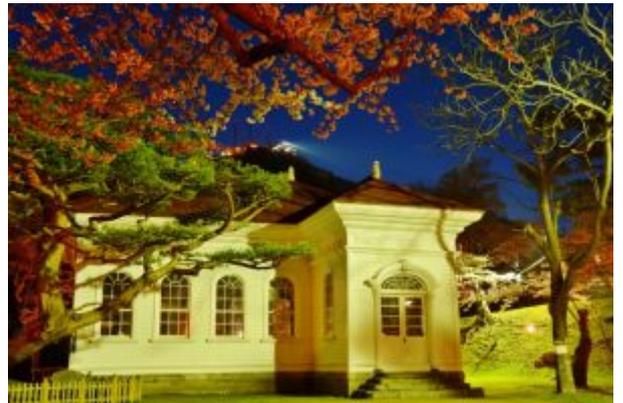
掛村 一憲

『夜桜とたたずむ』

施設名:旧函館博物館 第1号館(日本に現存する最古の洋風木)

■審査委員講評

ライトアップされた歴史建築と桜、撮影された時間帯がとてもよく空の青さが写真の良さをいっそう引き立てている。



★佳作

佐藤 靖

『フラワーカーペットと赤レンガ』

施設名:旧北海道庁

■審査委員講評

フラワーカーペットと旧道庁を真っ直ぐ捉えた構図がとても良いがもう少し早い時間にシャッターをきると、建物のディテールが表現されたと思います。



★佳作

齊藤 玲子

『 てっぺん目指して 』

施設名: 札幌ドーム

■審査委員講評

人物の表情などが写ってないのですが、風船で十分満員のドームの熱気、高揚感などが伝わってきます。シャッターチャンスがとても良いです。



携帯・スマホ部門

★★★グランプリ

美馬のゆり

『 REFLECTION outside 』

-人のいとなみ、自然のいとなみ-

施設名: 公立はこだて未来大学

■審査委員講評

ドラマチックな夕焼けの風景がガラス一面に写る事で巨大なスクリーンを眺めるような臨場感ができました。ガラスで構成された建築の特徴が良く表現された作品です。



★★準グランプリ

藤田 美香

『 かぼちゃ小学校 全校朝会 』

施設名: JR ニセコ駅

■審査委員講評

ローアングルでカボチャをアップに背景にニセコ駅をなんともかわいらしいアメリカの地方のハロウィンを思いださせるような作品になりました。カメラアングルがとても良いです。



★★準グランプリ

斎藤 有理加

『 お祭りの日 』

施設名: 釧路フィッシャーマンズワーフ MOO

■審査委員講評

光輝くフィッシャーマンズワーフを縦位置にした事で手前の水辺に映る光と色彩がとても美しいロマンチックな映画の一場面の様です。旅情を誘う作品です。



★佳作

栗林 幸徳

『函館市地域交流まちづくりセンター』

施設名:函館市地域交流まちづくりセンター

■審査委員講評

思わず、入ってみたいくなるような古い歴史建築。ヨーロッパの街の片隅で撮影したようなとても雰囲気ある函館ならではの作品となりました。できれば、もう少しカメラを引いて建物全体を見たかったです。



★佳作

黒滝 則雄

『トンガリ屋根とコスモス』

施設名:滝野公園

■審査委員講評

コスモスの可憐な花を真っ正面から捉えた縦位置が空と雲と花のバランスがとても良い。あわよくばとんがり屋根の建物がもう少し大きく撮れるとさらに良くなったと思われる。



★佳作

米倉 明希

『春の夕陽』

施設名:北海道立文学館

■審査委員講評

柔らかい西日の夕日がなんとも心地よい。カメラ位置をもっと引くか、おもいきり寄るかなど建物のもつ特徴やデザインを捉えるとより良くなったと思われます。



審査委員 全体総評

今回も広く全道から 115 点もの力作が寄せられた。14 回目ともなると公募のコンセプトが広く理解されてきたと思われ全体的にレベルの高い作品が多く、審査も楽しく厳正に行われた。建築と人々とのふれあい愛される建築など公共建築のもつ多様性が感じられる作品の多くあった。締め切りの関係で冬の作品が無かったのが残念ですが、今後は若い人や学生などのエネルギー溢れる作品にも期待したいと思います。